

平成 28 年 2 月 10 日

「縄文服」制作記

一文様に祈りを込めて

荒井君江

縄文時代の編布技法を応用した「縄文服」の製作依頼を埋蔵文化財センターから受けた。担当者の方々と協議し、茅野市^{なかつばら}中ツ原遺跡出土土偶「仮面の女神」の文様を参考に刺繍を施した編布^{あんぎん}（編み物の技法で作られた布）貫頭衣（布の中央に穴をあけ、そこに頭を通して着る衣服）を基本とした。また、バンダナ（鉢巻）も同様の方法で制作することとした。

実際に各地の縄文時代の遺跡からは糸や布の繊維素材として確認されているタイマ（大麻）、アカソ（赤麻）、カラムシ（苧麻）等の自然素材が出土し、これらの利用が想定されている。しかし、原草の採集から糸を作るまでの過程に要する時間は長期にわたり、かなり高額になるため、入手可能な栽培繊維の黄麻^{こうま}、亜麻糸^{あまいと}を使用することになった。

縄文時代の遺跡から発掘された土器や石製品等に比して、自然素材から採り出した繊維・布片や木製品は遺存状態が悪い。製品のみならず編み具等の用具類も確認できていない。しかし、出土した布片や土器の底部に圧痕として残った布の痕跡等から、新潟県十日町地方や長野県秋山郷に民俗例として伝承されている越後アングンの技法で、同様の布が製作できることが解明されている。北海道のアイヌの人々が、現在でも使用しているイナウソという花ごぎを編む技法のほかに、簾^{すだれ}や俵^{たわら}を編む技法も同様の原理である。

今回は、民俗例の編み具を簡易化したものを使用した。このほかにも、同様の編み目の布を編むには、弓状の細い棒を用い、漆濾^{うるしこ}し（漆から不純物を取り除く作業）に使用するような細密な布を編むことが可能な緯編^{よこ}み法（緯もじり法）技法がある。縄文時代にも漆製品があることから、この技法が存在していたのではないかと推察される。

編布^{たていと}の経糸^{から}の絡め方は、全ての経糸を右利きの編み目（S 撚）にすると、布の左端裾が裏に巻き込んだ形に撚れ、右端裾は表に反り返って捩れがでるため、平たくなるよう、両端の縦糸数本の絡め方を S 撚状、Z 撚状交互になるように（写真③）設定した。

縄文時代には、針穴や針先が精巧に作られた骨角製の針が多数出土していることから、編布や毛皮、魚網等の縫合や修理に使用されていたことがうかがえる。上水内郡信濃町の市道^{いちのみち}遺跡から出土した縄文前期の土器底部には、針を使って布の綻びを繕ったと思われる、刺繍のような縫目の痕跡がみられる。

幅広い文様を施す際、平組法を用いて染糸をテープ状に編んでの刺繍を試みた。東京都の多摩ニュータウン遺跡から出土した縄文前期の片口深鉢土器に、丸四つ組の紐の圧痕がみられ、縄文時代にも組紐が利用されていたと考え、それを基にした。

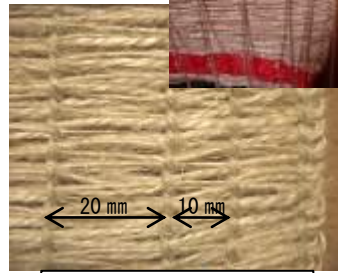
一編み、一編み、糸を絡ませながら布を編む作業は、せわしない現代の時の流れに逆行している。土偶「仮面の女神」の文様の背景にある精神世界や文化に想いを馳せつつ、文様に祈りを込め、躍動感を失わないよう制作にあたった。巧みな技と知恵を駆使して衣文化を築いたであろう縄文人には到底及ばないが、豊かな空間に身を置く時間をいただけたことに感謝したい。

「縄文服」制作工程

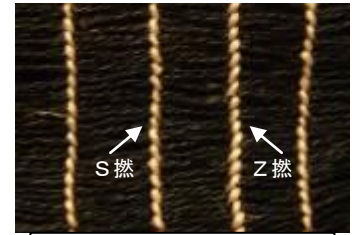
〈貫頭衣胴部分編布〉



- ① 経糸：亜麻
緯糸：黄麻
・経糸を1本おきに絡めて編む応用編布技法



- ② 経糸編幅：20mm
・補強のため、両端部分の各3本のみ10mm幅に設定



- ③ 編布の振れを防ぐため両端数本の経糸の絡み方がS捻、Z捻交互になるよう編む



- ④ 襟空き部分は経糸を休め、前身頃の襟下部で左右の経糸を合わせて編む



- ⑤ 貫頭衣胴部（前後身頃）
幅：500mm
全長：1,600mm

〈貫頭衣袖部分編布〉



- ⑥ 経糸：亜麻
緯糸：黄麻



- ⑦ 下部：経糸を徐々に増やしながら斜めに編む
上部：経糸を徐々に減らしながら斜めに編む



- ⑧ 幅：300mm
全長：500mm

〈補強・接ぎ合わせ〉



- ⑨ ・襟空き部分の裏面縁に黄麻糸を三つ編みにした紐を貼付し補強



- ⑩ ・袖下部分に黄麻糸を三つ編みした紐を貼付して補強



- ⑪ ・袖前後の下部 100 mmを除き身頃の肩部分と袖の肩部分を千鳥がけで接ぎ合わせる

〈施文〉

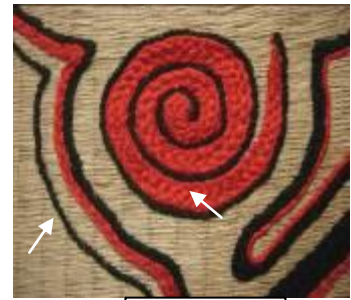


⑫

- ・幅の広い部分は赤、黒色の亜麻染糸を三つ編み(三つ組)、さらに幅広テープ状平組編みにして刺繍
・細い部分は絡み縫いで刺繍



⑬



⑭

- ・平組編み
・絡み縫い

〈部品装着〉



⑮

- ・袖下部分前に小枝を輪切りにしたボタンを装着
・袖下部分後ろに大麻糸を三つ編みした紐をループ状に装着
・設計段階ではボタン装着は2箇所であったが、着用した際、袖端部が浮翼するため追加し3箇所装着



⑯



⑰

- ・前後身頃下部の8箇所到大麻糸を三つ編みし、緊縛するための紐を装着する



⑱

貫頭衣全体の展開

〈バンドナ〉



⑲

- 経糸：亜麻
緯糸：黄麻
・基礎編布技法



⑳

- ・亜麻染糸を平縫いで刺繍
・両端の経糸は緊縛し易く三つ編み